

秋田駒ヶ岳の火山活動解説資料（平成 24 年 2 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

めだけ
女岳では、2009年から2011年9月にかけて地熱域の拡大が認められ、2011年12月には地熱域に対応する融雪域が確認されています。

火山性地震は少ない状況で、ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

平成21年10月27日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図2～3）

仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）では、女岳から最大30mの噴気を観測しました。

・ 地震や微動の発生状況（図4～5）

火山性地震は少ない状況が続いています。
火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図6～7）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

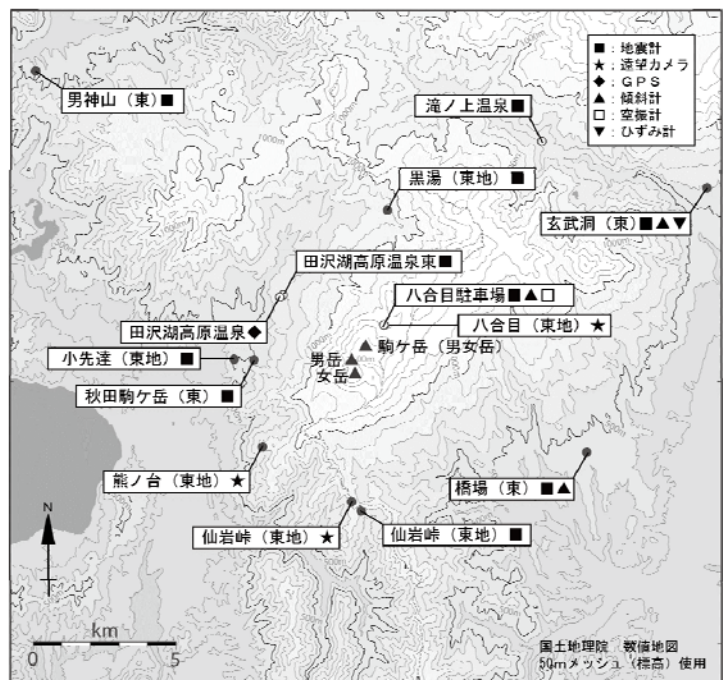


図1 秋田駒ヶ岳 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （東地）：東北地方整備局

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成24年3月分）は平成24年4月9日に発表する予定です。

※この記号の資料は、気象庁のデータの他、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。



図2※ 秋田駒ヶ岳 女岳からの噴気の様相（2月29日13時03分頃）
仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。
実線赤丸で囲んだのが、女岳からの白色噴気で高さは30m。



図3※ 秋田駒ヶ岳 日最大噴気の高さ（2010年4月～2012年2月）
熊ノ台（女岳山頂の南西約5km）及び仙岩峠（女岳山頂の南約5km）に設置してある監視カメラ（東北地方整備局）による。

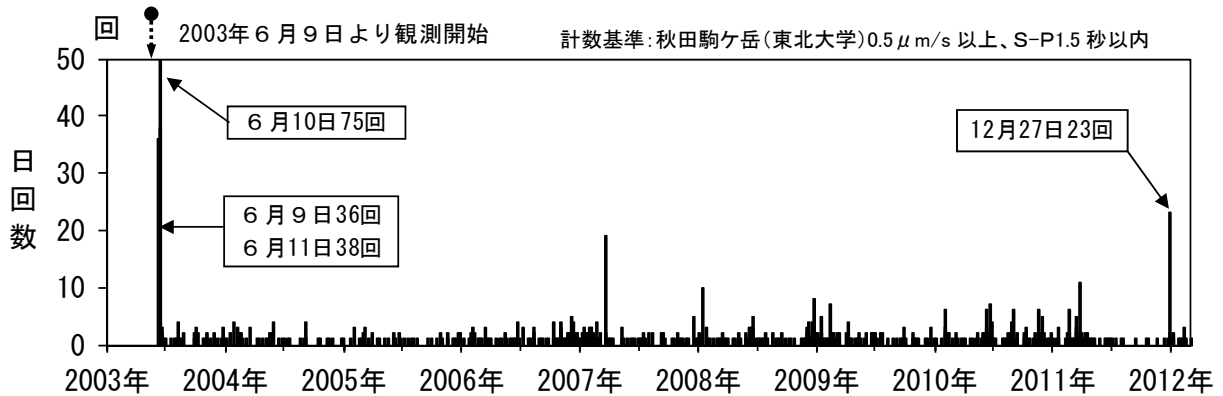


図4※ 秋田駒ヶ岳 日別地震回数（2003年6月～2012年2月）

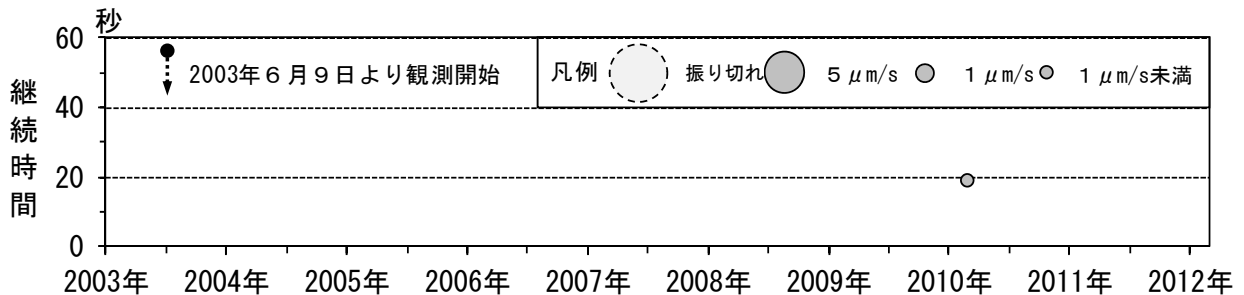


図5※ 秋田駒ヶ岳 微動の継続時間と上下動最大振幅（2003年6月～2012年2月）
東北大学秋田駒ヶ岳観測点による。

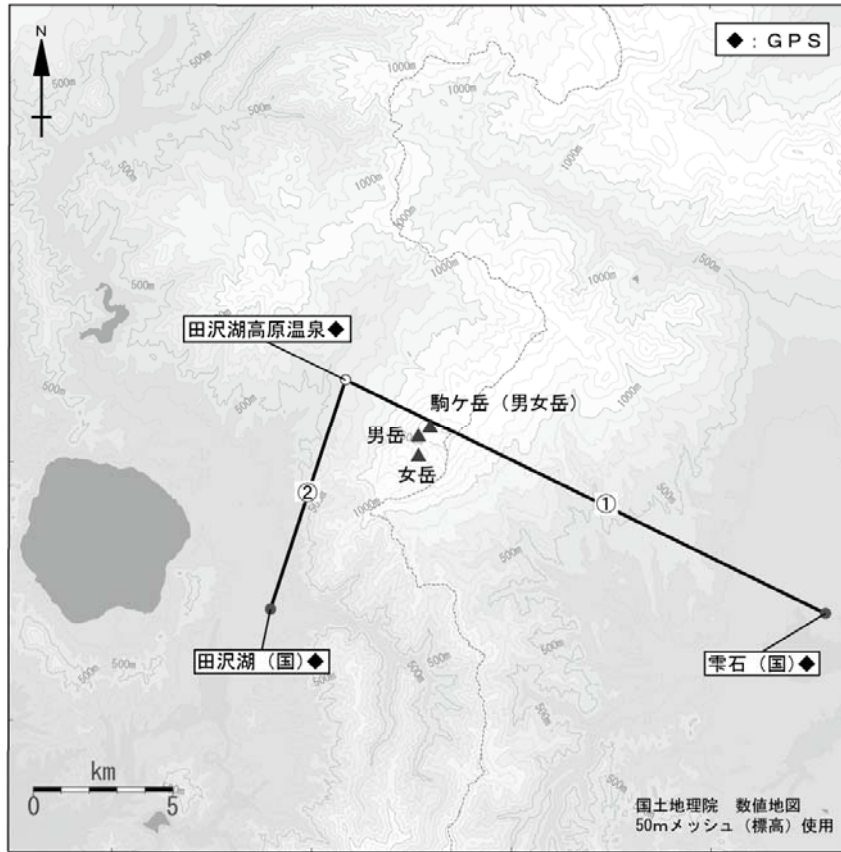


図 6 秋田駒ヶ岳 GPS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。(国) : 国土地理院
GPS 基線①~②は図 7 の①~②に対応しています。

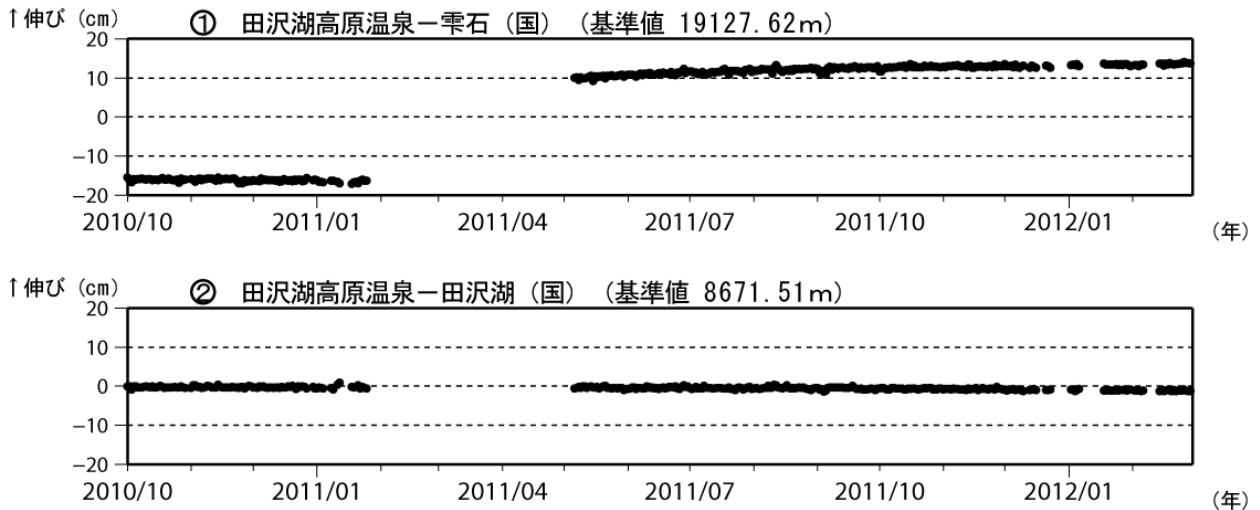


図 7※ 秋田駒ヶ岳 GPS 基線長変化図 (2010 年 10 月~2012 年 2 月)

①の基線では、欠測期間中に東北地方太平洋沖地震によるデータの飛びがみられます。また、その後の変動は、東北地方太平洋沖地震による影響であり、火山活動によるものではないと考えられます。

①~②は図 6 の GPS 基線①~②に対応しています。
グラフの空白部分は欠測を表しています。